

吹田操車場跡地における健康・医療のまちづくりへの期待について

摂津市医師会

1. 基本的な考え方

- ①国立循環器病研究センター、市立吹田市民病院が摂津市と隣接する地域に移転してくることにより、摂津市域の地域医療の向上につながることを期待するとともに歓迎する。
- ②今後、国立循環器病研究センターと情報交換に努め、事業面での連携を深めていきたい。また、市立吹田市民病院との連携・協力も模索していきたい。
- ③「健康・医療のまちづくり」については、吹操地域に限定された取組みではなく、市域全体に行き渡るような取組みを志向すべきと考える。

2. 国立循環器病研究センターとの連携の方向性

国立循環器病研究センターが吹田市医師会等と共同で実施している以下の事業に限らず、新たな提案等があれば、可能な範囲で協力していきたい。

①連携登録医制度

摂津市医師会内で循環器系を診療するすべての病院、診療所に連携登録医制度への参加を推奨し、循環器疾患の医療連携を進め、診断・治療の向上に努めたい。また、地域医療の向上に向けた様々な取組みに協力をお願いしたい。

②コホート研究

次世代コホート研究の具体的な内容は、現在、国立循環器病研究センターで検討中とお聞きしており、詳細が固まれば、行政と連携を取りながら、出来る限りの協力を行っていきたい。

摂津市域においては、特定健診の受診率が 28.8%にとどまり、“健康せつつ 21”が目標とする 60%を大きく下回っている状況である。医師会としても、受診率の向上を重要な課題の一つとして取り組んでおり、連携することにより受診率向上につなげられればと考えている。

③その他

患者双方向の紹介、退院後の在宅医療における診療所との連携や地域包括ケア病棟等を活用することで、医療・予防分野における地域包括ケアシステムの構築を連携することにより推進したいと考えている。

3. 市立吹田市民病院との連携

市立吹田市民病院移転後には、摂津市の医療機関で通院している患者が、市立吹田市民病院での診察や検査及び救急受診や入院を希望されることが飛躍的に増すものと考えられることから、これら患者を出来る限り受け入れていただきたい。また、簡便で迅速な手続きで紹介できるようお願いしたい。

4. 摂津市域の地域医療の向上のための提案・要望等

①新国循への交通アクセスの改善

移転後の国立循環器病研究センターに最寄りの JR 岸辺駅は、摂津市内からは JR 東海道線しかダイレクトに接続する公共交通機関がなく、市域のほとんど（特に、安威川以南の地域）から交通アクセスが悪いことから、改善する必要があると考えている。

②医療圏の違いを越えた地域連携パスの運用

地域連携パスについては、医療圏の違いから、摂津と吹田で仕様が異なることが課題と考えている。診療する病院・診療所から言えば、何種類もの地域連携パスを使い分けることは負担が大きく、可能であれば、大阪府下で統一した地域連携パスを運用することが望ましい。

③医療クラスターの全体像の明確化

国立循環器病研究センターが掲げる医療クラスター形成の構想については、どのような企業等が進出してくるのが不明であり、事業の進展があれば、適宜、情報提供をお願いしたい。